

ベッド・トイレ・入浴の提供

七月十六日午前十時
十三分頃、海の日、穏やかな休日、突然、マグニチュード六・八(震度六強)の激震が襲い、街並みや人々の生活が一変しました。中越地震からようやく復興の兆しが見えはじめた街は、新潟県中越沖地震によって再び

大きな被害を受けた。前回の中越地震では、当社の長岡営業所でも建物が被災しました。地域の人々と力を

新潟県中越沖

を合わせて支援活動に取り組みました。特に、避難所などの不慣れな環境で不便な生活をされている高齢者の方々に、介護用ベッドや車椅子などを提供し喜ばれました。今回の地震においても、前回の支援活動での経験を生かして、避難所などへの支援活動に取り組んでいます。

無臭簡単!! ハイテクトイレ大活躍



待機するズラリ並んだトイレ

今回の地震では、柏崎市の市街地を中心に水道管が破損、建物のトイレが使用できなくなり、仮設トイレが設置されました。しかし、体の不自由

な人が多い高齢の方々は、遠く離れた仮設トイレまで歩いていくということや、和式の多い仮設トイレの使用が困難な場合も多く、問題となりました。本年三月二十六日に発生した能登半島地震でも同じようなことがありましたが、メーカー(日本セイフティー株式会社)より自動ラップ式トイレ「ラップポン」の提供があり、災害用ポータブル

トイレとして高く評価されました。この「ラップポン」は、高齢者の使用を考慮した椅子型のトイレで、しかも、使用後に一回ごとにラップするため「水を使わない」「臭いもしない」という特徴があり、避難所などでの使用に適したトイレです。今回の地震では、この能登半島地震での評価を生かして、メーカーと協力し、「ラップポン」を柏崎市と刈羽村の避難所など約三十箇所に設置しました。また、メーカーから被災地への直送(95台)にあたっては、防衛省が手配してくださった自衛隊の災害派遣車輛の協力もあり、「一刻も早く!」

地震への支援!!

福祉避難所へ介護用ベッドを設置



被災地へベッドの搬入



社員がベッドの組み立てで汗をかく



完成したベッド

被災地計八ヶ所に在宅介護を受ける高齢者や障害者の方々が対象とする「福祉避難所」が設置されています。この福祉避難所は、一九九五年阪神大震災を機に制度化されたものです。

当社では、このような福祉避難所などに対して、前回の中越地震のときと同じように、介護用ベッドを提供し、避難生活の環境改善に尽力しております。福祉避難所で実際

に介護用ベッドをご利用されている方の声として、「一般の避難所より静かだし、ベッドでも寝られるので過ごしやすい」と報道されました。

という現場の声にこたえることができました。使用した方々からは、「屋外の仮設トイレは遠かった、これから近くで楽になった」「今までのトイレは始末が大変だったが、掃除がいらずに簡単でいい」「このハイテクトイレは臭いがまったくしないのがいい」

などと好評です。今回の地震のように災害は突然襲ってきますが、「ラップポン」のようなトイレが普段からいろいろなところに備えられていれば、災害時にもっと早く使用することができ、避難所生活での負担を大きく軽減することができると評判でした。

訪問入浴車が出動。一週間ぶりの入浴に笑顔

地震発生から九日目の朝、柏崎市北園町にある特別養護老人ホーム「しおかぜ荘」に、普段は訪問入浴サービスで使っている訪問入浴車が出動しました。これは職員の方々の「地震後、施設の浴室が使用できないために、入浴して

方々約二十人が利用されました。約一週間ぶりの入浴に、お風呂上りにはさっぱりした気分が自然と笑顔もひろがり、大変喜んでいただけました。日常生活も少しずつ復旧している様子が報道されていますが、まだ不便な生活を続けておられます。私たちは、私たちができることは限られていますが、地域に育てていただいた福祉用具貸与サービス事業者として、また、介護・福祉分野の専門職集団として、被災地の皆さまや支援活動に関係者の皆さまとともに、復興に向けて支援活動を続けていくつもりです。



ホースを二階まで伸ばす訪問入浴車

要請に応えた活動でした。被災地への訪問入浴車の派遣は当社でも初めてのことでしたが、職員の皆さんのやさしい気持ちに応えたいという思いで取り組みました。この日の入浴を心待ちにされていた入所者の

六月二十日、当社主催の講演会、「北欧式トランスファートクニクと介護の労働環境セミナー」が長岡市のホテルニューオータニ長岡で五十五名の介護関係者を集めて開かれました。講師は、小島ブンゴード孝子先生（講師・通訳、写真㊸）とマリアンネ・グレーダー先生（OT・実技指導、写真㊹）。

高福祉・高負担のデンマークより来日されたお二人、高齢化による「福祉改革」で厳しくなった実情を踏まえて、講演前の数分間をインタビューに費やしていただきお話を聞くことが出来ました。



福祉の原点

資源は「人」、人を大切に

「デンマークの介護の実情を聞く」

味で基本が違いますね。でも出てくるお金というのは、みんな私たちの稼いだお金でございます。

「アメリカでは介護地獄という話もありますが、日本とデンマーク、アメリカを比べた介護福祉についてお伺いいたします」

私もアメリカの状況はよくわからないのですが、デンマークの場合では人を大切にするというところから始まっていると思います。介護は勿論お金がかかる福祉ですから、そのお金を税金で集めて、そ

「今、日本でも話題となっている消費税の問題、介護を充実させるその財源を確保するためには消費税を上げねばならないという主張を聞きますが、お国の実情はいかがでしょう。か。」

消費税は世界一高い二十五%でございます。誇っていいのかどうか、わかりませんが。（笑）ですから、そういう意

これから必要な方に必要な介護をするという使い方になるのです。税金だつて湯水のようにあふれてくるものではありません。んから、限りあるなかでやっぱりできるだけ無駄なく、そして必要な方に適切なサービスをすることでしょう。政府、行政への信頼感の違いもあります。それが、基本的に日本やアメリカとの考え方の相違になるの

でしょうか。しかし、無駄なく効率よくやらなければいけないというところは、ある意味で民間企業の経営原理を取り入れているかという点で、違います。ですから、そういう意味では、現場の方たちも経営者、責任者も骨身を削って頑張っている。だから、地獄ということではまずありえないことですが、大変は大変だと思ひます。

「日本も確かに、社会福祉協議会とか行政が中心となつての介護と、民間企業の対応というのがあ

るわけですが、どうもそういうところがある

「高齢者虐待」の考え方の相違

おもしろいといえるかどうか人それぞれの考え方の中で、今日のテーマとは外れますが、高齢者虐待というのがありますでしょうか？」

日本の専門の方で高齢者虐待というテーマで、デンマークで研修したいと言つた方がいました。

ある大学の教授ですが、私はそういうテーマを受けまして、「高齢者虐待

というのは、高齢者が誰かを虐待するのですか？それとも高齢者が虐待されるんですか？」と思わず訊いてしまいました。

デンマークでは高齢者が虐待されるなんてことはありえませんが、高齢者が虐待されるということ、調査したつて出てこないわけですね。「高齢者が虐待するのですか、どっちなんですか？」とまず最初に質したのは、このような背景があるのです。デン

マークでは高齢者、特に認知症の方たちが、ついつい不安になつて介護する人に暴力を振るうとか、言葉の暴力を振るうということはありえますので、

アメリカにもあるのかと思ひますね。」

そこらは問題になつて

るのですが、高齢者を虐待するということはまずありません。そこが国柄の違いですね。まだ日本とデンマークの間には差があるのかなという気がします。

「親がだんだん老いてくると、昔のイメージとは違つてきます。だから虐

在宅介護には、家族はノータッチ

「介護が基本的にはプロに任せられるとすると、『ざいたくしんぶん』の記事や方針とは逆の方向を向いているような気がします。我々が目指しているのは、在宅介護で、元気に過ごしていられ

る高齢の方々を取材しているのです。」

在宅介護もたくさんあります。もちろんデンマークも在宅介護が基本です。施設はごくほんの一部であつて、ほとんどの方が在宅介護を受けてらっしゃいます。

ただ、その在宅というのが、日本の場合は家族の方が介護して、できな

待に走るといふのは短絡過ぎると思ひますが、原因は何でしょうか。」

やはり第一が介護疲れでしょう。それが日本の高齢者虐待につながつていふと思ひます。その介護疲れというのが、デンマークではありませんからね。デンマークの場合は基本的に介護が必要になつたら、それはプロの人が手を貸してくれま

す。そこで家族が疲れきつちゃうといふことはない、その辺がやはり大きな違いだと思ひます。

「自分の家で暮らしているとなつて、独りが多いですか？それともご夫婦で？」

ええ、伴侶と一緒に、独りでございます。だから私どもはどんなに老いた父や母を思つていても、父や母は自分たちの生活を守る、子どもである私

たちは私たちの生活を守るのが原則です。もちろ

高負担は行政への信頼

「デンマークの実情は、ずいぶん福祉が発達しているといふことで伺つていますが、いかがでしょう？」

それは一言ではなかなかお話しできないところですが、これには歴史がございます。

福祉の一番の源というのは、人を大切にすること、という気持ちだと思います。

それは長いデンマークの歴史のなか、資源としては「人」しかないといふ状況から生まれてきたのでしよう。その一つとして、人を大切にする

気持ちから福祉が進んできたのだと考えられます。そう十年、二十年で培わ

れたものではないと思ひているのです。



新しく介護ショップ “新潟店”がオープン

三店舗目の介護ショップ



〒950 - 1148
新潟市中央区上沼393
TEL 025 - 280 - 8338
FAX 025 - 280 - 8225
営業時間／午前9時～午後5時
定休日／土・日・祝祭日・年末年始
駐車場／有り
取扱商品／在宅ケアベッドなどの
福祉用具や介護用品他

六月十一日、鳥屋野潟西側（新潟市中央区）女池ICより南約五百メートルの上沼交差点角に、介護ショップ新潟店が開設されました。当社が運営して介護用品や福祉用具を販売する「介護ショップ」としては、一九九九年本社に併設した上越店、その後、新潟ユニゾンプラザ内に福祉用具展示コーナー

テーマは
上質な眠りと健康

介護ショップ新潟店は、上越店や新潟ユニゾンプラザ店で学んださまざまな経験を活かして、新しい雰囲気での「介護ショップ」を目指しています。特に新潟店では、お客様のニーズや時代の変化にお応えして、「上質な眠りと健康への提案」を一つのテーマにしています。店内に

心地よい空間と幅広い品揃え 福祉用具の普及を

介護ショップ新潟店では、新しい開放的な雰囲気の店になっています。上質な眠りを提案するべ

は、新潟県で唯一、パラマウントベッドが「眠り」にこだわる人に提案する「IN TIME」（インタイム）を常設し、上質な眠りを体感していただけです。さらに、さまざまな眠りの悩みを解決するマットレスのオーダーメイドへのご相談にもお応えしていく予定です。

は、新潟県で唯一、パラマウントベッドが「眠り」にこだわる人に提案する「IN TIME」（インタイム）を常設し、上質な眠りを体感していただけです。さらに、さまざまな眠りの悩みを解決するマットレスのオーダーメイドへのご相談にもお応えしていく予定です。

「生きていくということはある程度リスクを伴うものです。そのリスクを最小限に食い止めるのが人間の知恵で、文化の発展につながることはなにかと思います。今、われわれの業界は人類の為の発展の手助けをさせていただいているのだという自負をお話を伺いながら感じました。ありがとうございました。」

ん家族の支援はしますが、介護の支援はプロに任せるとい考え方です。そこが違います。日本も、アメリカもそうだと思いますが、介護はお金を払わなければならない、ある程度介護保険でカバーされるとしても、お金がかかりますよね。です

福祉先進国？ 後進国？

「日本では、親の面倒は家族がみる、特に長男、もしくはそのお嫁さんがみるというのが美徳とい

り切って考えてくれませんか。離れている兄弟や親戚、時には地域の方々からご指導をいただくという事例をよく見聞きます。これは、日本人の精神構造の問題だと思います。朱子学から発した武家社会の敬重主義の名残というか。そういう意味では日本はまだまだ後進国なのでしょうか」

北欧と日本では違うんじゃないかと思うのです。デンマークのような介護福祉が必ずしもいいかどうかはまた別だとも思います。少なくともデンマークの場合は、みんなが自分の道をいくので、お互いに干渉しない。だけれどやっぱり歳をとつてくれば、こどもの顔も見たいし孫の顔も見たい。だから昔から家族との関係をうまくはぐくんできた高齢者は、ずっとずっと最後まで、孫の顔も見られるし、息子は毎日電話

をしてくるし、娘は週に一回は訪ねてきてくれる、という関係になるのです。でも、それははぐくんではなかった方は、老いて独居で寂しい思いをしています。日本にもたくさん見られると思いますが、人それぞれの生き様ですよ。家族との関係というのには千差万別だと、この国も同じだと思つて……。だからデンマークでも寂しい高齢者がいますし、毎日家族と生活してなくても本当に自立してやっている人もいます。

家族が精神的にバックアップしている人もたくさんおられます。日本だつて、家族と一緒に住んでいるからといって、家族が虐待するなんてことも起こり得るわけですからね。一緒に住むことが、イコール幸せとは限りません。

「家族と一緒に、はたして幸せかどうかかわらないです。だからある意味で日本の場合には、例えば家の強力な支配力の持ち主であつた方が弱つてきて、結局お嫁さんに介護される身になり、下の世話もされてくると、要するに役割というか、立場が変わってきますよね。それが高齢者の方にとつて、はたして幸せなのか？ということになりま

もう夏に近い日差しをうけながら謡「桜川」の出迎えで、上越市三和区野にお住まいの楚山信英（81）さんを訪ね、お話を伺いました。楚山さんは奥さんがグループホームで暮らしているので一人住まい。それでも人間大好きな楚山さんは要支援2という判定を受けながら多趣味の生活を楽しんでおられます

海軍

昭和十九年四月、鳥取県美保海軍航空隊予科練に入って、一年で卒業。飛行機乗りだわね。

美保海軍の航空基地は予科練の基地と実践航空基地の二つの基地があった。実践の基地は、実際に飛行機に乗って戦地に行く。飛行機の訓練を受けようとしたら、訓練用の機を戦地に持っていかれて飛行機がない。実践航空隊で乗せてもらって、勉強させてもらった。

要支援2

生活を楽しむ 生きる達人・楚山さん

予科練の全国大会が神戸であった時、九州から来た分隊長が全隊員分の血書願書を持ってきた。感激したね。自分の息子に会えたようなもんだ。運の良さを戦友と分か

て家一軒建てた。経験もないのに、木を切り根っこを掘って畑作った。そしてたら本家から田んぼを三反歩ほど分けてくれた。当時の生活は楽でなかったが、よかった方じゃな

し合って、稲田に鋳物工場を作った。彼はおれよりも十も先輩だから、社長。おれは専務兼営業、鋳物工場で出来た商品を中心に売りに売りに行った。あの時分、農機具が絶頂期を迎える頃。できた鋳物は全部農機具屋に売りにまわった。それが縁で、今もあるけど、東本町五丁目にあった高田丸富商会（現



懐かしいねかね。人生宝ばっかりだ。おれ、今、会う人ごとみんな宝もんばっかりだ。

時代だったからバイクで、冬は歩き。

戦後

高田の東本町五丁目に長岡から疎開してきた。戦後だから、仕事も自分の家もない。それで、今の三和の工業団地、あそこなんか全部藪や林で、その藪のひとつかみを本家から分けてもらった。そこで、高田からリヤカーに両親乗せて、開墾し

就職

昭和二十六年頃から柳林っていう集落にある鋳物工場で雑役をした。製品を運ぶ役目さ。そこに会社がつぶれるまで二年通った。勤めていた人と二人で十万円ずつ金を出

だから年中家に帰って寝たことがない。そのお駄賃が社員旅行でみんな海外旅行。四十五年頃から五十五年位で、おれなんかハワイに三回、東南アジアの八〇%も行ってる。今からみれば全盛期だ。山の田んぼは、膝までもぐって稲刈りする。機械が入らんかったから全部手刈りだった。それを、今度機械でもって刈るよ。うなものをおれが考えた。

家庭

昭和三十年、中学校教員の家内と結婚。二人とも勤めてたから家にいなかった。子どもは全部おれの母親が育ててくれた。子どもは二人。息子は新潟、娘は三条で生活。家内は四、五年前に脳梗塞で倒れ、去年の十月グループホームに入所。検査するが、おれと同じ、元気でどこも異常なし。おれは要支援2で、津南病院へマイカーを運転して、痛み止めの注射を打ちに行く。腰の左右、右の膝。最初は左の股関節がやられた。股関節と



楚山さんが開発した湿田用バインダー（㈱マルトミ提供）

：あのときはそれを作ったおかげで、全国みんなに買ってもらった。それからこまめについて、畑うつ小さい機械。六日町農協がいちばん売ってくれた。その頃、農協は農家専門だった。まちの人たちとはつきあひひとつない。あのこまめのおかげで六日町農協は、まちの人たちと全部知り合いになった。それで県内でも六日町の農機具屋が一番売ってくれた。湿田用バインダーもこまめも日本一をとった。

らい貼る。食事はヘルパーさんが作ってくれる。ご飯は大抵赤飯で、餅の類が大好きなんだ。酒も好きだし、家で呑むときは二合だね。昼間隣の食堂で一合、そこに来るお客さんとも友達になったり。夜は家で二合のコップ酒。簡単だ。甘いものが大好きで、お酒のつまみが羊羹。切らないでそのままかじりながらお酒飲む。血糖値もあがらない。これもご近所の皆様のおかげと付き合い切れない程の素晴らしい「宝の友」に恵まれ心から感謝し上げる次第。今は膝が痛いので止めているが、毎日歩いていた。その代わり、三時間くらいで往復できる距離のドライブをする。



愛車を駆って、さあドライブ

朝は毎日四時半頃目が覚める。新聞を二時間かけて全部読む。七時過ぎたら朝風呂。それからあんま機に一時間くらい。首から肩、背中、一番痛い腰をかける。効くねえ。湿布は腰から膝に八枚く

現在

今日は謡の稽古をしていた。中国語の教室は去年の八月頃腰を痛めてから行ってない。やるのがいっぱいあるんで寂しいなんて感じないね。波乱万丈、今まで体験したものの百%が、おれに心身共「宝」となっているね。



楚山さんが書いた血書「盡忠」